

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0490200052		
法人名	社会福祉法人 みやぎ会		
事業所名	グループホーム きたかみ		
所在地 (電話番号)	石巻市北上町橋浦字大須234 (電 話) 0225-61-7720		
評価機関名	特定非営利活動法人介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成 20 年 1 月 31 日		

【情報提供票より】(20年1月14日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 6 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	1 人
職員数	7 人	常勤	7 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 7 人

(2) 建物概要

建物形態	併設/○単独		○新築/改築	
建物構造	木造		造り	
	1 階建て		1 階 ~ 1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷 金	有(円)	○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	350 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名	
要介護1	2 名	要介護2	3 名			
要介護3	4 名	要介護4	名			
要介護5	名	要支援2	名			
年齢	平均	85 歳	最低	75 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	石巻市立雄勝病院
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは、旧北上町の半農半漁地域の一角にある。青森、宮城県内を中心とした広域法人の運営で、開設して8ヶ月の新しいホームである。近くには日本「音」百選に選ばれた北上川の全国一の面積を誇る葦原が広がり、風光明媚な所でもある。敷地内には特養ホーム、デイサービスセンターが併設されている。施設長が実質運営者となり、ホーム勤務の経験がある管理者、計画作成者が中心となって、認知症ケアの実践が行われている。発展途上のホームのため、昨年12月の行政の实地指導で指摘された点があったが、現場での説明資料を見る限り、改善が行われていた。管理者以下、日勤者全員に話を聞いたが、各々が熱心にケアに取り組んでおり、入居者が安心、安全に暮らせるホームと思われる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 初めての外部評価であり、前回の改善課題はない。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員全員に自己評価票を配布し、記入しており、取り組みが全員参加で行われている。評価の意義と狙いについては、更に全員の話し合いを強めるようお願いしたい。また今後評価で見出された課題については、改善計画を立てて、その実施に取り組むよう望みたい。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 開催回数の少なさはあるが、ホームの目的、实地指導の内容など話し合いが行われている。議事録も整備されており、運営推進会議を軸にサービスの向上を図ろうとの意欲は感じられた。今後は災害対策も意識しながら、メンバー構成なども考慮し認知症ケアの地域拠点づくりの場として活用されるよう望みたい。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 生活状況表や「きたかみだより」、簡単なお手紙など、家族との報告、連絡がなされている。運営に関しても苦情処理の説明など行われており、更に窓口機能の拡充で家族の意見を吸い上げたいとのことなので、家族会の結成も含めて今後の取り組みに期待したい。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域住民の一員として、地域密着の理念に基づき地域に溶け込む努力がなされている。保育園、学校、地域行事に積極的に参加しようとの意欲が感じられる。特養ホームの行事とも連携しながら、ボランティア、地域の人たちの交流が更に拡大するよう期待したい。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念が掲げられており、ケアにも活かされている。法人の理念も具体的である。今後現状に合った理念の見直しが行われる時は、「地域生活の重視」「地域との関係性強化」をうたった理念の具現化を期待したい。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人の理念を含め、唱和が行われ、ケア会議や連絡ノートによる話し合いの場を作り、共有のための努力が行われている。「その人らしく」をモットーに、安心と満足のサービスを提供するため、個々のケアと理念の整合性に配慮して、更に継続するよう望みたい。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域との濃密な関係を作るために努力が成されている。地域の清掃活動など社会奉仕の活動にも積極的に、地域に溶け込むための意欲があり評価できる。引き続き継続を期待したい。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価は全員で行われている。自己の提供したケアやサービスの質についてふりかえり、繰り返し改善点を見出す作業は、サービス向上にかかせない。ぜひ改善点の掘り出しも含めて、持続するよう望みたい。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	議事録の作成を含めて、細かに行われている。ホーム運営の核になるよう更なる充実を期待したい。地域密着のホームづくりのため、改善点を見出すためにも、活用を積極的に行うよう一層の努力を望みたい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	積極的に担当者との交流を図り、情報交換を盛んにすることは、ホームを孤立させないためにも大切なことと思う。認知症ケアの地域拠点として、役割を増やすため連携を強める取り組みを望みたい。	○	旧北上町の保健福祉ゾーンの一角に位置する地の利を活かして、各種会議に出席しホームの現状を話し、話し合いの結果を職員にも還元して、さらに地域拠点としての役割を高めて頂きたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月定期的に、また個々にあわせた報告が行われている。生活状況、「きたかみだより」の配布、お小遣いの使用状況など知らせている。給付管理は法人の事務部門で行っている。手紙も同封して事務的にならないよう配慮している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	実地指導での指摘を受けて、苦情などの窓口を増やすよう改善した。意見等が出易くなるよう全員が話し易い雰囲気づくりに心がけている。運営推進会議の場でも、繰り返し反映する場があることをお話している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設から日が浅く異動や離職の実績がないが、馴染みの関係を維持しダメージを防ぐため、方策を検討している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム連絡協議会、法人、ホーム内の各段階で、活発に研修が行われている。スキルの平均化のため報告会などの充実が必要と思う。介護福祉士の資格取得も法人全体で計画的に行われている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム連絡協議会に加入して、一泊の研修会などに参加している。今後は他ホームとの相互訪問やスタッフの交換、勉強会に参加して研鑽を積み、サービス向上を図っていくとのことなので、実現して頂きたい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前の見学や自宅の訪問を通して、不安の解消に努力している。家庭的な雰囲気づくりのため職員が全員で努力している。家族とも話し合いを持ち、開始の調整も柔軟に行い馴染める工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活では、人生の先輩として尊重し誠意を持って接している。食材の知識や料理方法など多くのことを学び、ケアに活かしている。	○	入居者が得意分野で力を発揮し、生きがいを持って生活できるよう、職員が入居者のライフスタイルを引き出す力を、更に磨いていただきたい。入居者を介護される一方の立場に置かない取り組みが、認知症の進行を遅らせることに繋がるので努力を期待したい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話や家族との話し合い、観察を通して、思いや希望を汲み取り把握に努めている。情報は職員で共有してケア会議で検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者本位の介護計画づくりは、ほぼ行われている。個別、具体的な計画づくりも進んでいるが、家族との話し合い、同意の徹底など、まだ取り組みが不足な面がある。更に充実に努めて作成してもらいたい。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しや一部家族への相談や報告があるが、定期的に行う入居者や家族の意向の確認は充分とは言えない。	○	計画の進行管理や、評価の実施の面が十分な作成が成されていない。常日頃から評価に基づく計画作成を心がけていただきたい。計画の成果と反省に立った取り組みで、職員も含めた作成の気風を確立されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院、買物、手続き代行など、必要な支援は、充分行っている。家族が必要とする支援も行っており、個々の満足感を高めるよう努力している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医にできるだけ受診できるよう支援している。近くの保健ゾーンにひまわり診療所があるので、適切な診療が受けられるよう、信頼関係を築き対処している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	急変の場合の看護職との24時間の連絡体制はある。ターミナル段階の取り組みは、全職員の研修や対応方針の確立など、これからの課題であり、早急に取り組むよう努力するとしているので期待したい。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	誇りやプライバシーを損ねる言動はしないよう徹底している。個人記録やメモを人前に放置することはない。個人情報保護については、実地指導を踏まえて、取り決めを行い全職員が理解に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな流れはあるが、入居者のペースに沿ったケアを心がけている。個々のペースにも配慮して柔軟に対処し、その日にしたいことの把握もこまめに行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	早番が食事を作る役割を担い、メニューは特養ホームのものを参考にしている。食材は発注しており入居者の状況を考慮して作っている。特養ホームにいる管理栄養士に助言してもらい、更に楽しい食事になるよう望みたい。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間帯を決めずに、入居者の希望に沿うよう努めている。脱衣室には地元の葦が敷かれ清潔感がある。入浴を好まない方が一名いるが言葉がけや対応の工夫をして支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活習慣、希望、有する能力を踏まえて、多くの支援をしている。地元の追分温泉へのドライブや月2回の行事などは、利用者と相談して決めている。得意とする分野の活動も活発に行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出は散歩を中心に行い、買物、ドライブにも出かけている。買物は出納状況を見るとお菓子、ジュース、アイスなど食料品が多いようだ。午前、午後とも行かれる方もいるとのことだった。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛けず、玄関にはチャイムやセンサーもない。入居者一人ひとりの外出の癖や傾向を掴んで、話し合い対応している。開設以来行方が判らなくなった方は出ていないとの事である。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、法人全体で訓練を行っている。地域の協力体制を強めるため、運営推進会議で呼びかけを行う計画であるという。	○	ホーム独自の訓練も年間計画を作り、推進して貰いたい。また非常時用食料やヘルメットなど備品類も手近な所に、地震等に備えた備蓄の必要があり、防災用倉庫の設置も含め検討していただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、チェック表に記載して栄養バランスを取るよう配慮している。但し、入居者の大半の方が、開設以来体重が増えているとのことなので、最寄の管理栄養士とも相談して、栄養面、カロリー面での対策が必要と考える。		
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者一人ひとりが、落ち着ける空間になっている。季節が感じられるものが置かれ、装飾も適度にされて、病院のような殺風景さは感じられない。照明の配置や日差しの取り入れ方も適当と思われる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は綺麗に整備されており、広さも標準的である。但し、各居室にもう少し個性が欲しい。本人、家族と更に相談して貰いたい。家庭的な雰囲気を各居室からも発信できるよう、努力をお願いしたい。		